

絵画療法の理論と実際

クリエイティブセンターみかわ
所長 杉浦堂之

1. 誰にもできる子どもの絵の診断

①子どもの絵は心の表現であります。

「Aちゃん、なに描いてるの？」

「ゾウさん」

「ゾウさんならお鼻が長いでしょ。ずいぶん短いね。ネコさんみたいなゾウさんだね。」

「これでいいんだもん。」

「もっと長くかかなきゃ。これぐらいに…。」

母子の間で、子どもの絵を囲んでこんな会話がよく交わされます。心の交流をすることは大切なことですが、たまたま、子どもが表現したいと考えていることにケチをつけたり、飛躍しようとする心にフタをしないように十分注意したいものです。

「Aちゃんの絵、ずいぶん下手なのね、お父さんに似たのかしら…。」

「お母さんの子なら、もっと上手なはずなんだけど」「やっぱりダメね、先が思いやられるわ」などど、たびたび言われると、信頼している父親もダメ、自分もダメ、くさしてばかりいる母親もダメ、みんなダメ人間になってしまい、創作欲、表現欲が抹殺されるばかりか、ストレスがたまって憂さ晴らしのはけ口を弱いものいじめに求めることになるかも知れません。

「人はなぜ働くのか？」「なんのために生きるのか？」と言う問題も、優しく言い換えると、自己表現をしたい、自己実現をしたい、自己顕示したいなど、心の表現をしながら、生き生きと働くことを楽しむ、とすることでしょう。

②子どもの絵をとおして、良き話し相手になりましょう。

これは、子どもも大人も、昔も今も、これからも変わらないことです。子どもは、とくに幼児は言葉や文字による表現は思うにまかせないので絵に描いて気持ちの表現をします。それは心の中にあるものを、外界の形を借りて表すもので、表れた形は手段であって目的ではありません。その手段としてのゾウさんやキリンさんや花が、写真のように似ていなくてもいいのです。写真のように描くのは昔のことで、昔は写真がなかったので、絵で代用しようとしたのです。戦前の図画は、手本をまねて描き、如何に上手にまねるかに腐心しました。写真の発達とともに、上手にまねるなら写真を撮ればよいことになり、子どもの絵は写真とは違う、子ども自身の内面描写なのだ気づき、心の内面を太らせ、創造的に自己表現をさせよう、その場も保証しよう、ということに移り進んできました。これは明らかに大きな進歩だと思います。

そういうわけで、子どもの絵はそのときどきの心の内面を何らかの形を借りて写し出された

ものですから、同じゾウを描いても、活発な子、消極的な子、あきつぼい子、情緒不安な子、体験の浅い子…によって表し方が違います。これは人物を描いても同じです。イライラしているときは、そのイライラがすぐ絵に現れます。

大人が窮地に立たされたとき、話し相手を見つけて、いろいろ話していると、ただ話したと言うだけで気分がいくらか楽になるのと同じで、子どもはブツブツ言いながら憂さを絵にして紙にぶつけることによって気分を晴らします。これを周りの大人が読みとって、そのイライラの原因を探り、どうすれば取り除き解消できるか、当人とその対策発見に努力することが大切なことなのです。

2、実技「動的家族画(KFD)」を描く

① 実技・実習 「動的家族画」を描く

・描画材料の準備

・描画指示

「あなたも入れて、家族みんなが何かしているところを自由に描いてください。」

描画の様子を観察

② 描画後の質問をし、楽しく話し合います。

参考資料

◎ 絵画療法(バウムテスト)

杉浦堂之

1.はじめに

バウムテストほど描いた人のところがわかるものはない。

①「木」の絵を描く

②「木」の絵の持つ特別な意味

・基本的な性格

・人間関係

・過去

・未来

・置かれている環境

・能力

・現在

③ モデルケースを診る

2.見えない問題点がこれだつかめる

① なぜ「木」には人間そのものがさらけ出されるのか

・自分自身の投影

バウムテスト(ツリーテスト)

その他 山家道波 → ある一部分

② バウムテストの歴史

1920年代 エミール・ユッカ(スイス)

地球上の直立生物「人間」と「木」

「自分の姿」→描きにくい

「木」 →描きやすい

カール・コッホ (スイス)

「バウムテスト」確立

↓

自己像=投影

↑

無意識・意識

1970年代 日本へ

③「木」の絵から具体的に何がわかる

④ あなたの描いた「木」の絵はどんな形の木

3. 驚異のチェック法

・木と地面→基本的な親子の人間関係

存在感の有無

生命力の強弱

・幹→基本的な性格

エネルギーの強さ

・枝葉→状況即応=性格の細部

ときどきの対応や気分

・地面はあるか

・根の生え方

・幹の状態

・枝の伸び方

・葉の繁り方

・背景は

・全体の位置

・色の使い方

4. 隠れた才能・能力(潜在能力)の発見と開発

・小さく描く、大きく描く→萎縮度

- 石や柵を描く→臆病度
- 幹の明暗→自信度
- 柱のような幹→頑固度
- 棚状に硬直した枝→言いなり度
- 斜線であらわす→神経過敏度
- 一つの木に多くの幹→多重人格度
- 木を何本も描く→葛藤度
- 植木鉢に描く→いい子度
- 木が描けない→恐怖度
- 草か竹のような木→身勝手度
- 枝先が広がる→規律度

